

2005年7月12日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ク リ ー ド  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 宗 吉 敏 彦  
( コ ー ド 番 号 : 8 8 8 8 東 証 一 部 )  
問 合 せ 先 執 行 役 員 財 務 経 理 部 長 菅 原 猛  
( T E L 0 3 - 3 5 0 0 - 3 3 0 0 )

### 新中期経営計画に関するお知らせ

当社グループは、この度第10期(2006年5月期)から第12期(2008年5月期)までの3カ年を計画期間とする新中期経営計画を下記のとおり策定いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 新中期経営計画策定の背景

当社グループは、第7期(2003年5月期)末に、第8期(2004年5月期)をスタートとして第10期に経常利益30億円・自己資本比率30%を目標とする3カ年計画を策定いたしました。

計画2年目である第9期(2006年5月期)に、経常利益が29.6億円とほぼ目標を達成したこと、自己資本比率(期末)が38.2%と目標を大きく上回っていること、また、不動産投資・運用市場、法制度、競合状況等あらゆる事業環境が2年前と大きく異なり、より高い成長を目指すためにはビジネスモデルの革新が不可欠であること等に鑑み、今般従来の企業理念を刷新するとともに、新たに第10期を初年度とする3カ年の新中期経営計画を策定することといたしました。

#### 2. 新企業理念

1996年の創業以来当社グループの精神的求心力であった「創業の精神」「行動規範」を踏まえつつ、社内外に当社グループが新たに目指すべき姿を明示すべく、ビジョン・バリュー・コミットメントの三部で構成する新企業理念を制定いたしました。

長期的な企業目標であるビジョンとして「クリードは不動産投資・運用の世界市場を創造し、その発展のために挑戦しつづけます」を掲げ、このビジョン実現に向けて、「誠実」、「本質の探究」、「独創性」を当社グループ独自のバリューとして、また顧客、株主、社会に対する責任を明確にしたコミットメントのもとに、グループ企業価値の拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。(添付資料1ご参照)

### 3. 新中期経営計画の概要

新中期経営計画では、今後の3カ年を不動産投資・運用の世界市場創造の実現に向けたファーストステップと位置付け、グループ受託資産残高8000億円の達成により国内トップクラスの不動産投資・運用グループを目指していきます。（添付資料2ご参照）

#### 【基本戦略】

- (1) 「運用ビジネス」「不動産サービス」「不動産活用ビジネス」の三事業を核とした新しいビジネスモデルの実践。

私募ファンドやREITの運用助言等を通じて投資家の期待収益の実現を図る「運用ビジネス」、不動産の発掘、評価から開発、取得、問題解決、アセットマネジメント、売却に至るまで実物不動産に関する様々なサービスを提供する「不動産サービス」、ホテル、商業施設等、不動産を最適活用した付加価値のあるオペレーションを提供する「不動産活用ビジネス」の三事業を中核事業と位置付け、各事業がそれぞれの顧客に対し収益極大化を指向しつつ、同時に事業間のシナジー効果を発揮していくことで、高い成長の持続を実現してまいります。

- (2) 高成長を支えるコーポレートインフラストラクチャーの再構築。

事業戦略に応じた財務機能強化、先進的なリスクマネジメント・監査・コンプライアンス体制の確立、人材マネジメントの革新、クリードブランド認知度の向上、業務効率化等を通して、顧客から信頼され、かつ高成長を支えるコーポレートインフラストラクチャーを確立してまいります。

#### 【計数計画】

	第10期	第11期	第12期	第9期実績 (ご参考)
連結経常利益	50億円	60億円	70億円	29.6億円
運用資産残高	3,000億円	5,500億円	8,000億円	1,284億円

以上